

記憶の南校舎 Keio University Mita South Building in Memory

学校生活はいつも教室と共にあります。そこで学んでいる時は、教室の空間や建物の造りなどに余り気にとめないかもしれませんが、時間を経て、学校を訪れた時、校舎は当時の記憶を呼び起こす装置として私たちに働きかけてきます。校舎に近づき、廊下を歩き、教室に入る——そこで過ごした場面が鮮やかに甦ります。空間の記憶はどのように我々の中に宿るのでしょうか。

創立 100 年を記念して建設された南校舎は 50 年にわたって慶應義塾三田キャンパスのメイン・ビルディングとしての機能を果たし、学生や慶應大学に関わった者にとって、三田キャンパスのイメージの根幹をなす建築物でした。天井が迫った暗い階段を抜けて大銀杏の立つ中庭に抜ける感覚、階段から左右に長く続く廊下、そして窓側にある不思議な外廊下——創立 150 年の建て替えによって、現実の空間としてはもはや存在しない旧南校舎を、「慶應の建築プロジェクト」が撮影した写真と映像を中心に、「記憶の南校舎」として振り返ります。

ご案内

【展覧会名】 記憶の南校舎 Keio University Mita South Building in Memory

【会期】 2011年9月12(月)～10月27日(木) 10:00-17:00 (土曜日、日曜日および祝日 休館)

【会場】 慶應義塾大学アート・スペース (慶應義塾大学 南別館 1F) 入場無料 ※ 南校舎を対岸に臨む、新しい展示スペースです

【主催】 慶應義塾大学アート・センター

慶應の建築プロジェクトについて

「慶應義塾の建築」プロジェクトは、一貫教育校を含む慶應義塾内の建築について、記録資料を作成・保存し、その記憶をアーカイブ化するプロジェクトです。創立 150 年を迎え、新規建築事業に伴う既存建築の解体が始まったことを契機に、アート・センターのノグチ・ルームアーカイブのランチとして立ち上げられました。

建築は有用性の論理から逃れることができない対象であるため、常に改築や解体の危機に直面せざるを得ません。このような状況の中で、建築のアーカイブ化を行い、建築空間の記憶をとどめようとする試みは、極めて重要な建築史的な意味をもつでしょう。また同時に、大学が自らの建築に対してこのような研究プログラムを実践することは、日常を送る建築空間を再認識し、意識的に建築にアプローチすることを学生にも促すこととなります。

本プロジェクトは、「塾内建築の基礎調査と記録資料整備」と「情報の発信・共有」を活動の軸とし、建築写真の現状調査、建築物の記録撮影、図面のデジタル化、撮影した写真を用いた写真展の開催などを行っています (過去の展覧会：谷口吉郎とノグチ・ルーム [2009 年])。プロジェクトの詳細は、<http://www.art-c.keio.ac.jp/archive/architecture/> をご覧ください。

ぜひこの機会に、取材や記事掲載にご協力いただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

【お問い合わせ】 慶應義塾大学アート・センター (真下、本間)

TEL: (03) 5427-1621 FAX: (03) 5427-1620 Email: ac-tenji@adst.keio.ac.jp

108-8345 東京都港区三田 2-15-45 <http://www.art-c.keio.ac.jp/>

取材に関するお問い合わせ、プレス用写真などご入り用の方は、上記担当までご連絡ください。

南校舎について

慶應義塾創立 100 年記念建設事業の一環として、三田キャンパス南側に 1959 年に竣工した大学校舎。2009 年 11 月解体。

同時に建設された三田キャンパス西校舎（現存）とともに、当時、新学制実施の結果として急激に増加した学生を限られた敷地に、既存の建築物を取り壊すことなく収容することを念頭に計画された。

南校舎には、100 名から 150 名を収容する小教室群が配され、南側道路（現在の第一京浜）からの騒音を防ぐため、教室の南面に歩廊が設けられた。

竣工当初、1 階は、敷地の狭隘化を防ぐため、また学生の集まる場所としてピロティ式の吹き抜けになっていたが、後に学生ラウンジや事務室に改修された。

また、南校舎の建設に合わせて、三田キャンパス南側に門があらたに新設された。それにともない、三田キャンパスの正門が、三田通りに面した門（現東門）から新設された門へとうつされた。

竣工当時の写真、平面図、立面図などは、「新建築」（1959 年 34 巻 6 号）に掲載されている。

構造：鉄筋コンクリート造／地下：1 階 地上：5 階 塔屋：2 階

竣工年月日：昭和 34 年 4 月 30 日

設計監理：三菱地所株式会社

施工：株式会社 安藤組

慶應義塾大学アート・センターについて

1993 年に開設された大学附属の研究センター。主な活動内容は、芸術関連の調査および研究の企画・実施、アート・マネジメントに関する研究・教育および実践、芸術関連の講演・ワークショップ・展示などの企画・開催、アーカイブの構築と美術品の収蔵・保管、学外関連機関との共同プロジェクト・受託事業、出版広報活動など。

近年は、アーカイブの活動成果に基づいた展覧会・シンポジウム等の開催に力を入れている。

ウェブサイト：<http://www.art-c.keio.ac.jp/>

Facebook：<http://www.facebook.com/rcaaa.keio>

Twitter：<http://twitter.com/rcaaa>

【アート・センターの主な催事】

大学の建築フォーラム（シンポジウム、2009）

谷口吉郎とノグチ・ルーム（展覧会、2009）

晩秋に響く ギターとフルート in 元麻布・安藤記念教会（コンサート、2009）

新しいアーカイブ学のために：アート・アーカイブ実践の現場から（シンポジウム、2010）

「病める舞姫」を秋田弁で朗読する——米山九日生少年に捧ぐ（朗読会、2010）

アート・アーカイブ資料展Ⅴ「アーカイブの現場」（展覧会、2010）

詩と舞踏のセッション 閃光のスフィアーレクイエム（舞踏公演、2010）

再発見！ 港区にある豊かな芸術資源（公開講座、2011）

拡張するジャズ——油井正一アーカイブ開室によせて（講演会、2011）

写真（上より）：南校舎ファサード、西側より見た南校舎、階段室

撮影：新良太

※デジタル画像を用意しておりますので、記事作成等でご使用の際はお問い合わせください

